

佐賀県

(全域)

施設キュウリにおける病害虫防除の効率化

【1. 概要】

- 施設栽培キュウリにおいて、紫外線カットフィルム、天敵農薬および耐病性品種などを活用減農薬防除体系を確立
- 減農薬防除体系を県ホームページ、JA機関誌に掲載し、普及を推進

【問い合わせ先】
農林水産部園芸課環境
保全型農業担当
電話：0952-25-7120

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- 佐賀県では、人と環境にやさしい農業の推進を図るため、化学合成農薬の使用を低減しながら、病害虫による被害を抑制できる防除体系の確立を目指している
- このため、県内で生産が盛んな施設栽培キュウリにおいて、IPMの技術を取り入れた防除体系の確立を推進した

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- コナジラミ類、アザミウマ類の密度抑制のため、紫外線カットフィルム、防虫ネット、殺虫剤、天敵農薬を組み合わせた防除体系を確立
- 耐病性品種による褐斑病の発生抑制、有機農産物で使用可能な硫黄剤を用いてうどんこ病の発生を抑制する防除体系を確立
- これらの技術を組み入れた減農薬防除体系を県ホームページとJA機関誌に掲載し、普及を図った(図1)

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- 県特別栽培農産物認証制度(減農薬栽培)に対応した栽培を行う農家戸数が28戸に増加
- 天敵(スワルスキーカブリダニ)利用面積が約3割に拡大

図1 抑制栽培キュウリにおける減農薬特別栽培防除体系

時期	7月			8月			9月			10月			11月			12月	化学合成農薬の有効成分数	
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	終了			
栽培作業	定植前の準備			定植			収穫開始						保温開始					
基幹防除	近紫外線除去フィルム			灰色かび病の胞子形成を抑制、アザミウマ類、コナジラミ類の侵入抑制														
*物理的防除	目合い0.4mm 防虫ネット			サイド以外にも天窓等の開放部分すべてに設置														
*耕種防除	害虫の発生基となる圃場内外の除草			褐斑病耐病性品種(ちなつ等)														
*生物的防除							スワルスキーカブリダニ放飼(25,000~50,000頭/10a)			*スワルスキーの増殖を促すため7~10日間は農業散布を控える								
化学的防除	アザミウマ類				アザミウマの場合 ①アファームEC ②アプレOF			アザミウマの場合 ①アファームEC ②アプレOF										
	コナジラミ類				スタークルG(育苗期後半株元散布) コナジラミの場合 ③コルトWDG			コナジラミの場合 ③コナジラミWDG										
	アブラムシ類				同時防除 ③で同時防除			同時防除 ③で同時防除										
	ハモグリバエ類 ダニ類、コブウ類				ハモグリ同時防除 ①nEギ®と3リ、②nEギ®を同時防除			アブラムシ類・チヌスWDG ハダニ類・スターマイTFL			①nEギ®と3リ、②nEギ®を同時防除							3
	ネコブセンチュウ	本圃熱消毒、前作で発生が認められた場合、ネマキックG																
病害	うどんこ病				イオウFL スワルスキー放飼後の散布は控える						硫黄Gくん煙処理 発生状況に応じて1~3時間/日処理 高湿度・結露抑制のために換気							3
	褐斑病							ダコニールFL 同時防除			フルビカFL 同時防除			ベルコートFL 同時防除				0
	べと病													ランマンF 同時防除				1
	灰色かび病 ・黒腐病							同時防除			同時防除			①アフェットFL 同時防除				1
	化学合成農薬の有効成分数				1			1			1			2				8

注1)県産の抑制栽培キュウリで使用される化学合成農薬の有効成分数は30成分、特別栽培(減農薬(県産の5割以下の成分数))に取り組む場合、育苗期から本圃終了時までの化学合成農薬の成分数は15成分以内であり、到達目標は13成分以内である。そのため、播種~育苗期に使用する成分数を5成分として、防除圃内の成分数を8成分、総計13成分とした。なお、本体系は購入量の定植を前提とする。育苗期に使用する農薬については購入先と協議して、化学合成農薬の成分数を5成分以内とする。